

江戸時代の水争いを今に伝える

## 五八悪水治水記念碑

この碑は、津島街道の上八ヶ村が天保八年に建てた、五八悪水の改修記念碑である。古来海部郡は米どころ、それだけに私たちの祖先は水との闘いを強いられてきた。碑は、その苦闘の歴史の貴重な記録となっている。

津島街道は古くからの幹線道路だが、上の村々の田はこれが障害となって排水に苦しんだ。またいったん大雨になると、街道をこえてあふれる水をめぐり、下の村々との争いとなる。

記録によると、天和四年この四間橋から西へ新たに一本の排水路が作られた。しかし、この溝は水落が悪くて争いが絶えず、享和元年ついに碑文の大騒動となる。降りつづく大雨で水があふれ、街道をかさ上げしてこの水を入れまいとする下五ヶ村と、それを破ろうとする上八ヶ村、そこへ他の村々までが加勢に加わる大闘争となり、役人が出動してこれを止めたという。

この後、代官所の命によって街道の高さを2尺(約60センチ)と決めたものの、上八ヶ村の滞水はかえって悪化し、何としても悪水路を改修しなければならなくなった。文政十二年八ヶ村の手で工事が行われるが水がうまく落ちず、願いによって天保四年役人が測量に入り、ようやく工事は成功する。碑は、清洲代官はじめ三人の役人の名を刻み、その徳をたたえている。

水問題は決して過去の問題ではない。堤防決壊や汚水問題など、今なお数多くの問題が山積している。この碑はまた、現代に生きる私たちへの鋭い警鐘ともいえるのではなからうか。

○ は上八ヶむら

五八悪水の名称は、この村々の数からとったもの。

□ は下五ヶ村

現在の流路は明治以後に改修されたもの。

